

## 「新産業を生む科学技術」選考講評

選考委員長 長田 義仁

豊かで多様性ある社会を実現するためには新産業の創出が必要です。本プログラムはそのために不可欠な「独創的・革新的な科学と技術を創出する研究」を助成対象としています。この背景には、次世代の研究者が先導してこそ創造的な科学と技術システムを生み出し、社会にイノベーションをもたらすことができるという時代が求める強い要請があります。凋落傾向に歯止めがかからないわが国の研究の実情にあって旧来の研究思考から脱却し、独自の構想をもとに大胆な挑戦をする研究者を応援したいと考えています。

12回目の募集となる2020年度は、情報、デバイス、材料、環境、エネルギー、医療、生命、バイオなど多彩な分野から195件の応募がありました。新型感染症拡大のさなか、20代から60代までの幅広い年齢層から数多くの応募をいただいたことは大変うれしいことでした。応募いただいた申請は経験豊富な15名の選考委員が慎重に審査しました。その際、研究分野、年齢、性別、地域などの間でバランスをとることはしないと事前確認したうえで、審査を実施しています。そして、「研究者自身の自由な発想にもとづき、高い水準にあるか」「細分化した学問領域を超えた新しい融合領域を切り開くか」「創造的な新産業創出につながる構想か」といった観点を中心に評価しました。また、デジタル化社会を迎え「社会を先導し新しい価値を生み出す未来開拓型の研究であるか」といった視野からも議論しました。

申請書に基づく書面審査と、本人のプレゼンテーションによる慎重な選考を経て、最終的に11件の研究提案を採択しました。いずれも社会の要請にこたえ、時代を先導する提案を選出できたと考えています。今回、残念ながら選に漏れてしまっ

た提案の中には申請者の熱意と高い研究レベルを感じさせる魅力的な提案が多くあったことを付記しておきます。

キャノン財団は、課題採択後も財団スタッフが研究室を訪問し、その結果をもとに、研究者の希望を聞きながら選考委員に助言を求めるなど、研究者の構想実現を後押しするための様々な取り組みをしています。専門分野の異なる研究者が集まって交流し議論する場もありますので採択された研究者はこれらの機会を活用して自ら描いた構想に果敢に、そして意欲的に挑戦して立派な研究成果を挙げることを期待しております。